

旭山～大雪連峰と旭川の接点

最終号

ぷくぷく

発行元 (有) 北海道新聞 下村販売所
旭川市東旭川北1条5丁目9番8号
ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>
お問い合わせ・お申込みは…フリーダイヤル ☎ 0120-233746

shimomura
旭山シリーズ 82
H28. 3. 5

“旭川～大雪連峰と旭川の接点” 最終回のお知らせ

「旭川を活かす街づくり市民の会」の名前と活動を一人でも多くの人に知ってもらいたい、という会員である石井征士さんの熱意に賛同し、平成21年6月より、毎月1回、石井さんの原稿を元に、当販売所で編集、作成し読者の皆様へお届けしてまいりました。おかげさまで、約7年ほどの間に「旭川を活かす街づくり市民の会」をたくさんの方々々に周知していただき今日に至りましたが、この82回をもって終了することになりました。

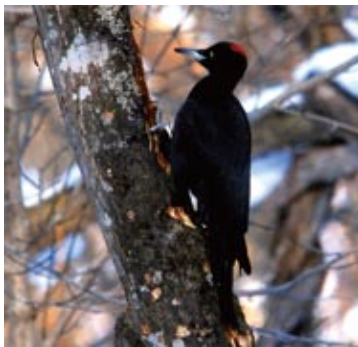
石井さんの素敵なイラストは、毎月発行のカレンダーで継続してお楽しみいただけますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。
下村販売所

別れと旅立ちの季節3月…希望の中に惜別の心!

その魅力と癒しの空間、歴史を探るシリーズ 82

春三月は別れの季節、卒業式を目前に親友や先生との残された日々を過ごす子供達、又、就職が決まり都会へと旅立つわが子を前に、笑みを見せる親の喜びと一抹の寂しさ。正確に時を刻む自然の摂理は、人々の思惑を無視したかのように確実にその羅針盤を春へと進めていっているようです。最終号は標題の意味を改めて問い直してみました。

「旭山～大雪連峰と旭川の接点」とクマゲラ



愛山溪雲井が原湿原に向かう登山道で、特別天然記念物「クマゲラ」によく出会います。自然を代表する大雪山を生息の場としているこの鳥、豊かな自然の象徴的存在です。その鳥を旭山で再度見ることが出来たのですから、旭山が大雪連峰と繋がりを深めていると希望的観測を持って期待をしているのです。

ところで、「クマゲラ」報道の発信場所は、東大雪糠平、東大演習林富良野、十勝三又、大雪ダム上川等々大雪連峰と連なった地域がほとんどです。北海道の中心大雪山の豊かな自然の恩恵を受けて生息しているクマゲラ、私達人間もその周辺を開拓し、人々が生活の糧としてきた市町村の姿がそこにあります。自然と人が開拓した土地を自由に飛び交うクマゲラの姿を、私達人間はどうか捉えるかにかかっている様に思います。

「旭山～大雪連峰と旭川の接点」とクリスマスローズ



それは突然の出会いでした。自然の姿が残っている谷間を調査している時、何気なしに上を覗いた視線の先に、チョコレート色をした花が見えたのです。それがクリスマスローズとの関係の始まりです。

「クリスマスローズ」の本によると、ヨーロッパを中心に栽培されている花で、花色がそのつど変化し寒さにも強いので好まれている園芸種のひとつで、日本でも数年前から花壇に植えている家が多くあるとのこと。その花が旭山の奥深い谷で数株見つかったのですから驚きです。めったに人も入り込まない奥深い地で、ヨーロッパ産の花が見られる現象はいったい何と云ったらよいのでしょうか。これも旭山の持っている特徴の一つで、豊かな自然の中に思いもよらない人の思惑がかかった出来事が潜んでいるのです。

「旭山の未来」を結ぶ接点

クマゲラ（自然の姿）とクリスマスローズ（開拓の手）が共存する旭川、私達はその地に生活をしています。旭山を活かすも殺すも私達の手の中にあることは紛れもありません。自然と開拓の《接点》を探りながら情報をお届けしたこのぷくぷくが、皆様の参考になりましたでしょうか。いくばくかでも足しになっていたのであれば幸いです。

比布スキー場から遠望すると、上川盆地一面が水田と住宅工場ビル街で占められており、大雪のすそ野から連なった旭山が、出島のようにポコンと突き出しています。この場所はおそらく自然環境が話題となった時、衆目を集める場所になるように思います。

振り返ってみて・・・!

- ・第1号は平成21年の5月ですから、足掛け8年、多くの仲間が参加して下さり資料や写真の提供、情報を寄せて頂き旭山コミュニティーが出来上がりました。
- ・このぷくぷくを読んで旭山に多くの人々が訪れてくれるようになり、夏冬変わらず山で挨拶を交わす常連さんが増えました。
- ・誤字脱字、間違った紹介等々大変失礼を致しました。どうぞ、素人の愚作と思ってご勘弁下さい。
- ・何の規制も無く、全く自由に無料で、しかも印刷し地域に配送して下さった道新下村販売所のご好意、会の支えとなりました。

さて、私達の発行してきた「旭山～大雪連峰と旭川の接点」は今号をもって終了する事となりました。足掛け8年と云う長い年月、ご支援戴いた道新下村販売所様、お読み下さった読者の皆様本当に有難うございました。心より感謝申し上げます。最終号とします。